

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	再発・難治多発性骨髄腫に対するイキサゾミブ(ニンラーロ)、レナリドミド、デキサメタゾン併用療法の後方視的検討
研究責任者	塚田 信弘、阿部 有
研究機関名	日本赤十字社医療センター 血液内科
研究目的と意義	<p>プロテアソーム阻害剤は多発性骨髄腫に対する治療の骨格となる薬剤ですが、現在本邦で3種類(ベルケイド、カイプロリス、ニンラーロ)のプロテアソーム阻害剤が発売されています。それぞれの薬剤には長所と短所があり、臨床の現場でどの薬剤をどのように使うべきかについてはまだ明らかにされていないのが現状です。</p> <p>ニンラーロは内服での投与が可能となった初めてのプロテアソーム阻害剤で、2017年5月に発売されて以来、当院では40名以上の患者さんがニンラーロによる治療を受けています。この研究ではニンラーロによる治療を受けた患者さんの診療情報を後方視的に解析して、今後のこの薬剤の使用法の検討する上での参考となるデータをまとめることを目的としています。</p>
研究方法	<p>【対象となる患者さん】 2017年6月～2018年3月にニンラーロ、レブラミド、レナデックスの併用療法(IRD療法)により治療を行った多発性骨髄腫の患者さんを対象とします。患者さんの背景(年齢、性別、骨髄腫のタイプ)、治療内容、治療効果について診療録をもとに匿名可を行ったうえでデータベース化して解析を行います。</p> <p>【倫理的配慮】 個人情報保護には十分な配慮を行った上で解析を行います。上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方は当センター血液内科までご連絡下さい。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：塚田信弘、阿部 有 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>